

KF 71-194 の特性把握—有望系統の評価法

杉本 明・仲里富雄・*大城良計・島袋正樹 (沖縄県農業試験場・*沖縄県農業試験場宮古支場)

Akira SUGIMOTO, Tomio NAKAZATO, Yoshinori OSHIRO and Masaki SHIMABUKU :
Identification of Important Characteristics of KF 71-194,-Method of the Clone Evaluation

有望系統 KF 71-194 (NiF 4) は、早熟高糖、やや茎重型であり、脱葉性、耐病性等にも多くの長所をもっていたが、収量の面ではややもの足りない成績であった。観察から、本系統は、立葉やや厚葉、茎は立性で密植多肥向の系統であると推測され、栽培管理に工夫を要することが予想された。そこで供試系統 KF 71-194、標準品種 NCo 310 双方を最適条件下で栽培し、両者を比較、評価するために栽培条件反応試験を設定した。この報告はその一部である。

1. 材料および方法

1) 供試材料 KF 71-194、標準品種 NCo 310

2) 試験方法 1982年夏植えおよび1983年春植えを用いた。夏植えの栽植密度は1.25m (畦間) × 0.2m および0.1m, 春植えは1.25m (畦間) × 0.15m (株間) とした。栽植密度以外は沖縄県耕種梗概によった。1984年1月に1区70㎡ 3反復で収量調査を行い、生育後期10月および翌2月に夏植材料を用いて刈取り調査を行った。

2. 結果および考察

収量調査の結果を第1表に、刈取調査の結果を第2表に示した。供試系統は標準品種に比べ、春植えでは原料茎数は少ないが一茎重が大きいため多収となり、夏植えでは一茎重は大きいがいそれ以上に原料茎数が少ないため少収となった。また供試系統は密植によって多収となり、最高収量は NCo 310 より大きかった。第2表に示したとおりいずれの形質の変動係数も供試系統の方が小さく形質の節位間での安定性を示していた。平均値についても供試系統は10月で既に収穫時に劣らなかったが、標準品種は収穫にむけて上昇の途上であった。

KF 71-194 は初期生育極おう盛で茎は立性、立葉やや短葉厚葉であり、早熟、密植多肥型の栽培が適すると推測されたが、今回の調査からもその一部が明らかにされた。この他にも多肥条件による増収 (大城・未発表、仲宗根・未発表) かん水による増収 (比嘉・未発表) 等が報告されており、この系統の最適栽培条件の方向を示していた。

現在の育種工程における栽培管理は標準品種 NCo 310 の形質最大発揮の条件下で供試系統を評価するものとなっている。今、育成対象たる品種に NCo 310 のすべてに勝るのではなく、地域の環境 (土壌、施設、経営形

態、技術水準) に応えるべき多様性を求めるならば、出来るだけ早い時期に、遅くとも生産力検定からは潜在している能力を引き出しうる多様な検定の場を準備し、その下で評価を下す必要があることをこの調査は示していた。そのための基礎はそれ以前における特性の把握であり、諸形質の可視的形質からの推測、その精度の向上が期待された。

第1表 収量調査の結果

		春植え	夏植え 標準	夏植え 密植	密植/ 標準
NCo 310	原料茎数本/a	893	1010	1070	106%
	1 茎重 g	707	1290	1235	96
	収 量 kg/d	631	1303	1321	101
KF71-194	原料茎数	93	85	92	114
	1 茎重	110	103	116	107
	収 量	103	88	107	122

注) NCo 310は実数, KF71-194は対 NCo310 比

第2表 刈取調査の結果

		平 均 値			変 動 係 数		
		節間重 (乾)	含水 率	ブリッ クス	節間重 (乾)	含水 率	ブリッ クス
NCo 310	10月	10.3g	79.2%	13.4	63.6	16.0	34.3
	2月	14.1	72.4	19.6	68.0	8.0	13.7
KF71-194	10月	13.1	74.6	17.2	40.1	20.2	22.2
	2月	12.2	74.3	19.5	63.2	7.0	10.2